

播磨灘広域共同調査（抄録）

（平成20年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業）

住友 寿明・酒井 基介・平野 匠

本調査は瀬戸内海東部海域において、養殖魚類および貝類の大量斃死を引き起こす*Chattonella*属や*Karenia mikimotoi*等の有害赤潮種およびノリの色落ちを引き起こす珪藻等について、その増殖と環境要因の関係を調査し、赤潮発生機構の解明と有害赤潮モニタリングを効果的に行うための予察技術の確立に資することを目的とする。また、瀬戸内海東部海域において、赤潮多発期の夏季およびノリ養殖期の冬季に関係機関で連携のとれた広域共同調査を実施することで、栄養塩濃度、有害赤潮種の動態等を広域かつ経時的に把握し、瀬戸内海東部海域における有害赤潮種の出現特性等を明らかにするものである。

平成20年度における徳島県担当水域（播磨灘南東部）での有害プランクトンの出現状況について取りまとめたので、その概要を報告する。なお、詳細については「平成20年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 赤潮・

貧酸素水塊漁業被害防止対策事業報告書」を参照されたい。

夏季調査

今季は周年を通じて栄養塩が少なかったうえに、台風の影響による鉛直混合も起こらなかったため、栄養塩の供給も少なかった。さらに*Chaetoceros*属等の小型珪藻が優占したため、*Chattonella antiqua*をはじめとする有害種は増殖しづらい環境であった。

冬季調査

今季はDINが低く、2月には播磨灘南部でノリ色落ちが発生するとされるDIN濃度である $3 \mu\text{mol/l}$ を下回った。ノリ色落ち原因種である*Eucampia zodiacus*は1月以降、播磨灘北部を中心に出現した。

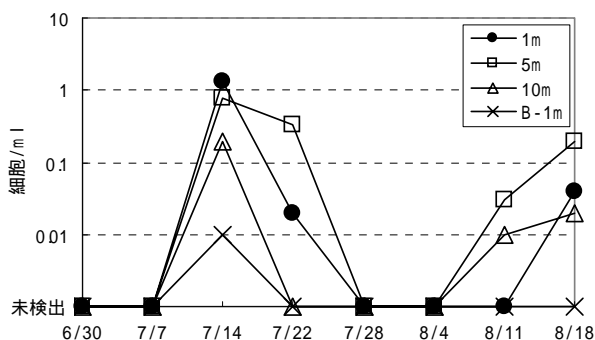


図1 播磨灘における*Chattonella*(*antiqua*+*marina*)細胞数の推移

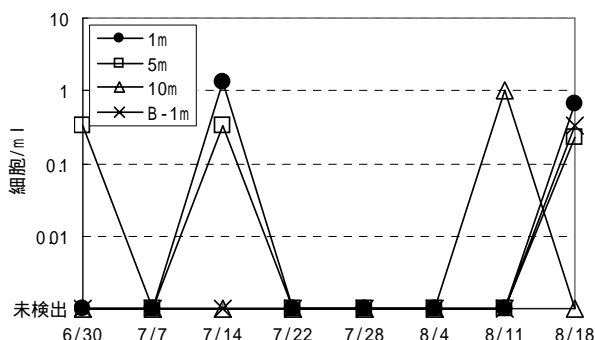


図2 播磨灘における*Karenia mikimotoi*細胞数の推移

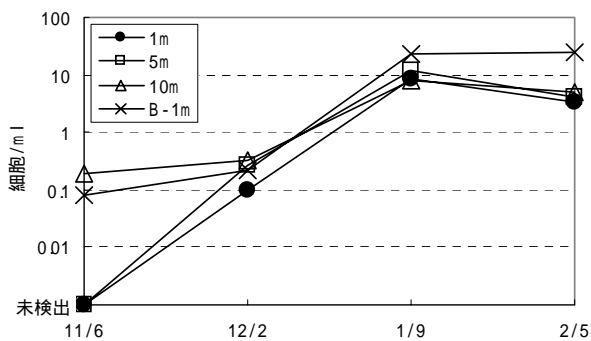


図3 播磨灘における*Eucampia zodiacus*細胞数の推移

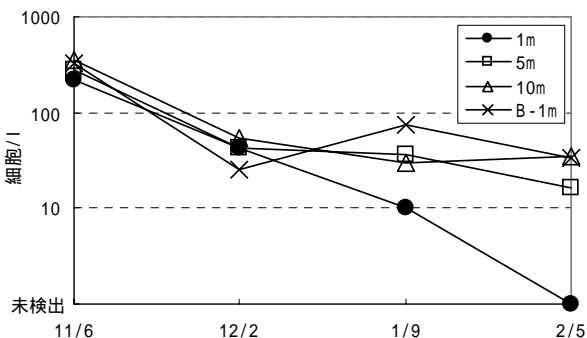


図4 播磨灘における*Coscinodiscus wailesii*細胞数の推移